

【 講義4 】

障害特性の理解と具体的な対応② －その3 発達障害－

1 発達障害とは

(1) 発達障害とは

- 生まれつきの「脳の機能障害」
 - ▷ 右利き、左利きがあるようにその人の個性
 - ▷ 特徴的な思考パターンがあるのだが、少数派だから、わかってもらいにくい
- 「脳の機能」の特徴によって、いくつかの診断名がある
 - ▷ 自閉症スペクトラム
 - ▷ ADHD(注意欠如・多動性障害)
 - ▷ 学習障害 など

(1) 発達障害とは

- しつけや育て方の問題ではない
- 本人が怠けているわけではなく、わがままなわけでもない

→ 援助者の理解によって、援助しやすくなる

(1) 発達障害とは

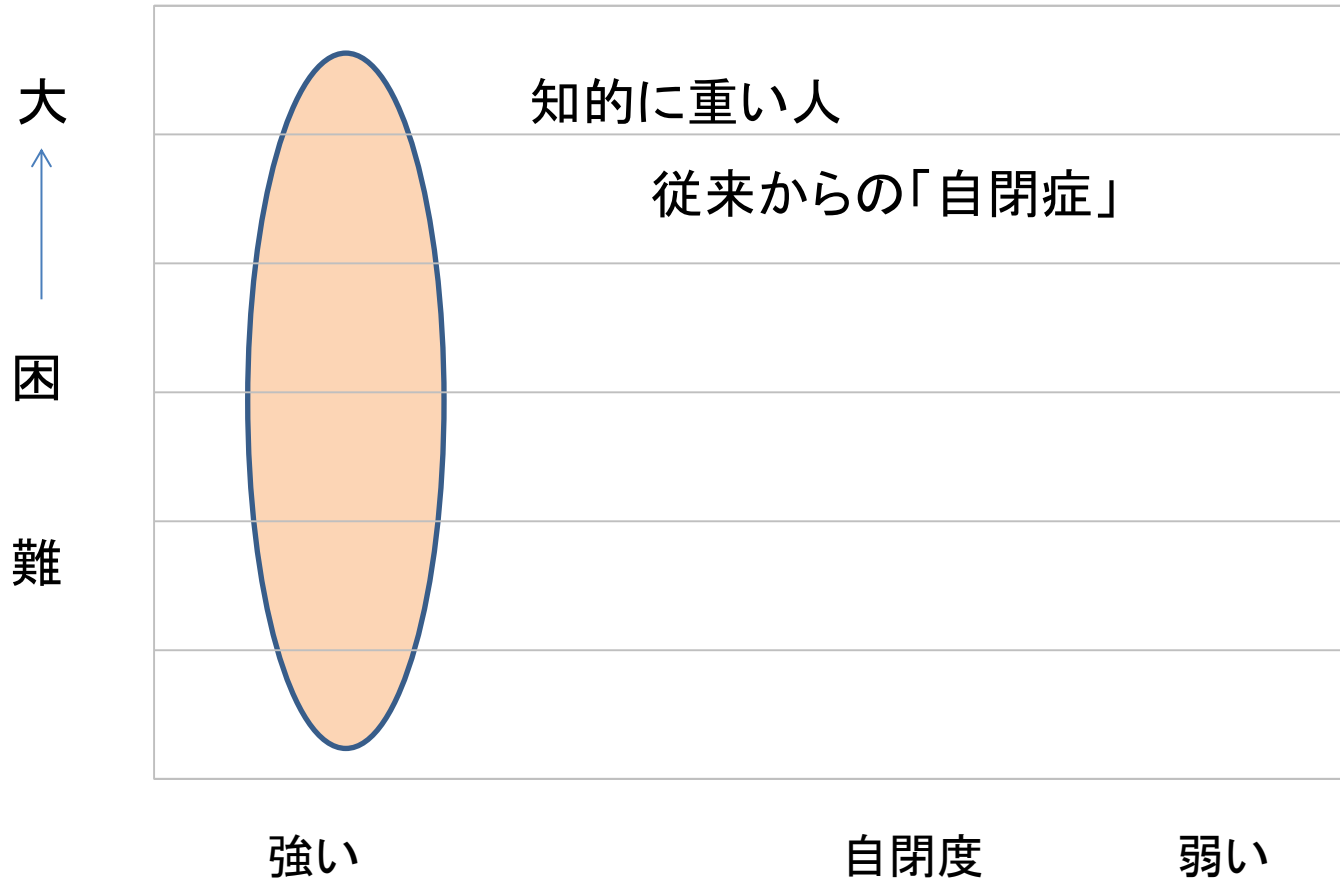
◆まだ新しい概念

→かつては、薬物の効果が低いと思われ、「統合失調症」と診断されて長期入院等をしてきた人もいる

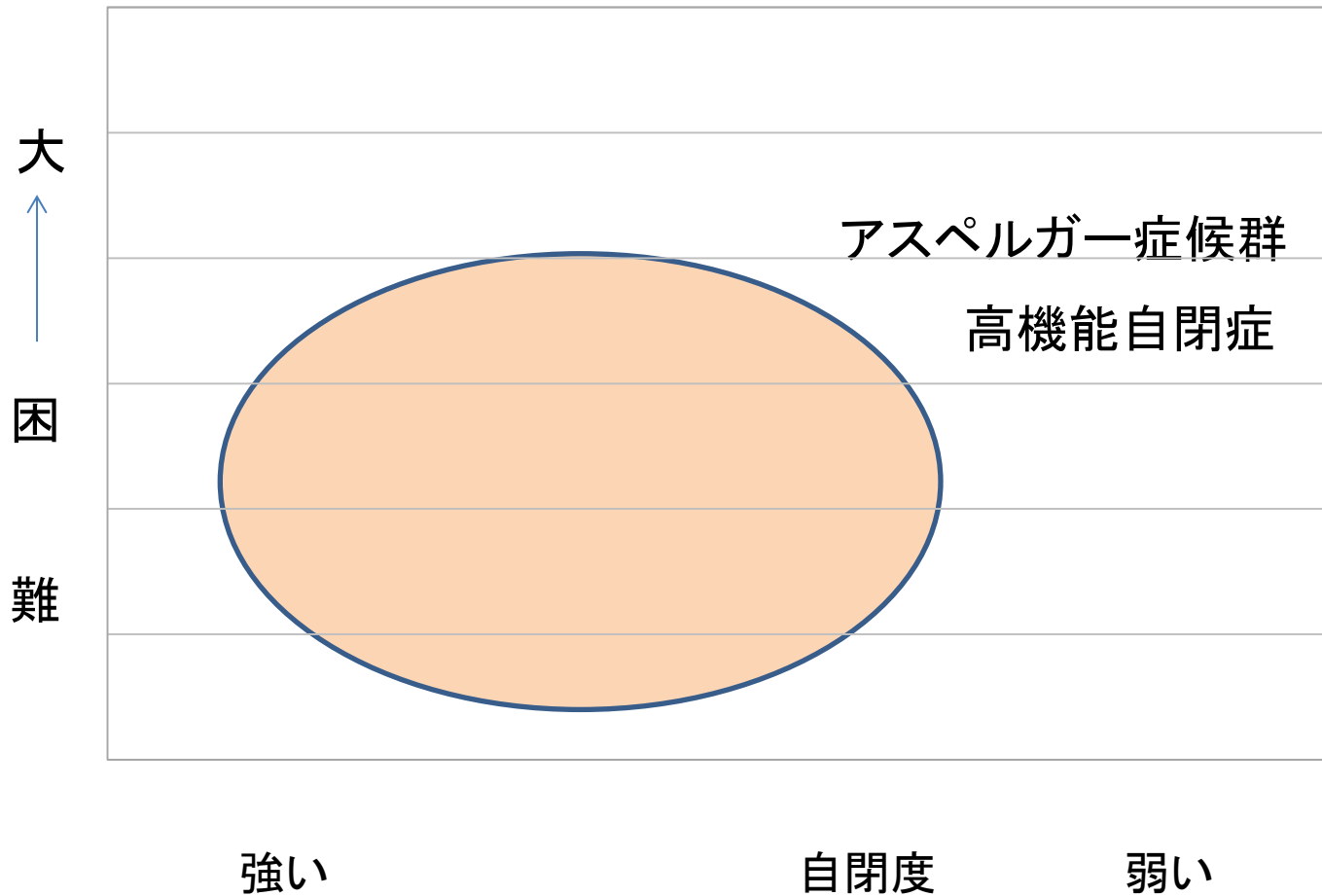
→「発達障害」とはわからずに生育したため、二次障害として「うつ」「ひきこもり」「アルコール依存」等になり援助が開始されることもある

周囲の理解が得られない「生きづらさ」の体験が重なり、人間不信を抱えていることが多い

(2) 自閉症スペクトラムとは



(2) 自閉症スペクトラムとは



(2) 自閉症スペクトラムとは

障害の特徴に「虹」のような濃淡がある



(2) 自閉症スペクトラムとは

(1) 社会性の障害

(対人相互作用の障害)



(2) コミュニケーションの障害



(3) 想像力の障害

(行動と興味の範囲の局限)



(4) 感覚・知覚の過敏さ、鈍感さ

(3) ADHD(注意欠如・多動性障害)とは

①不注意

集中して話が聞けない、金銭管理ができない、忘れっぽいなど

②多動性

よくしゃべる、体の一部を動かすなど

③衝動性

思いつきをすぐ言動にうつすなど



(4) 「学習障害」とは

◆ 聞く

話された言葉が理解できない(文章で示されると理解できる)
複雑な文章の聞き取りができない。単語の聞き誤りが多い など

◆ 話す

筋道立てて話すことが出来ない。余分なことが混じった文章を話す など

◆ 読む

誤った発音をする。文章や文字、単語を抜かして読むなど

◆ 書く

誤った文字を書く。単語の中に誤った文字が混じるなど

◆ 計算する

九九を暗記しても計算に使えない。暗算ができないなど

◆ 推論する

因果関係の理解・説明が苦手。今ここで直接示されていないことを推論するのが苦手など



2 具体的な支援のコツ

(1) 大人の発達障害

- 「こだわり」が周りには自己中心的に見える
- 他人への関心が乏しい、相手の気持ちを理解するのが苦手
- 優先順位がつけられない
- (省略されている部分などを)推測することが苦手であるため、常識や基本ルールがわからない人と思われるしまう
- 大人のパニックはわかりにくい

(1) 大人の発達障害

◆「こだわり」

⇒「人の意思に左右されない」「強い信念を持つ」といった長所ととらえることもできる

◆「変な色の服だね」

⇒本人、相手を傷つけるつもりはない。思ったことを言っただけで悪気はまったくない

◆ちょっとした変更で大クレーム 「攻撃」や「無言」はパニックかも？

⇒しばらく時間をおくのが得策
「どうしたの？」と言ってもさらにパニックになるので、
10分休憩しましょうなどで、風景を変える

たとえばこんなこと

「郵便局に行く？」と上司に聞かれ、

(ついでに頼みたい書類があるんだけど・・・
という裏の感情が読めず)

「行きません！」と
きっぱりと回答して、
反感をかってしまう



たとえばこんなこと

- 「ちょっと」「適当に」「その辺で」などの間合いを図る表現は苦手

⇒具体的に伝える

「あと何分」「あと何センチ」「あと何回」など

- 「自分で考えてもらおう」では出てこない

⇒具体的に提示

「こんな風に言ってください」

「こんな風にやってください」

(2) 発達障害を抱える人への支援

- 「何でこんなことが出来ないの？」
と言われ続ける
⇒ どうしたらうまくいくかは、誰も教えて
くれない、不安でいっぱい的人生
- 「わからない」ことをごまかすために必死
- 「ばかにされないように」攻撃的になる
- 「やってもできないからもうやらない」
と捨て鉢になる



(2) 発達障害を抱える人への支援

- ◆できないことに取り組むのではなく
健康な部分を評価して伸ばそう!

→見方が変われば評価も変わる

- ◆できないところ、悪いところ・・・よりも
たくさんの「よいところ」がみえてますか？

→その人なりに、頑張ったり我慢したりしている
ところを、見逃さない

→少しずつでも前進していることに気づく、
気づかせる



(2) 発達障害を抱える人への支援

- 診断をつけることより対応を考えよう
- 本人の得意なこと、苦手なことを理解する
⇒生活の「ちょっとした工夫」を
一緒に探していきましょう



(2) 発達障害を抱える人への支援

- うまくいかなくて傷つき、困っているのはその人自身です

⇒ 「困った人」は

実は、「困っている人」です



- 「私」以外の方が改善できる可能性も常に考えましょう

